6 野鳥たちの発するメッセージを受け取り、伝える仕事

環境の仕事　団体名：日本野鳥の会 三重支部

四日市市は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています

環境ボランティアホむ！

人と自然の共生を進めるための水先案内人として、特に野鳥に特化した活動に取り組む「野鳥の会」。野鳥観察や調査から野鳥を通して、自然環境の変化を把握し、自然と人の共生を目指すために今何が課題なのか訴えます。

活動している場所の様子

■ 活動の紹介

1971年、数人の有志により当会の前身である三重野鳥の会が発足しました。その後、1993年3月に、（財）日本野鳥の会の支部となりました。さらに、2010年5月に公益法人法改正にともなう措置により、日本野鳥の会三重と名称を改め、現在に至っています。現在の会員数は家族会員を含め、三重県内を中心に380名ほどの登録があります。三重県は南北に細長い形状をしているため、探鳥会などの活動は北勢・津・松阪・南勢・伊賀・東紀州の６つの地区を単位として運営されています。
当会では、探鳥会を中心とした野鳥観察の普及活動を行っています。

■ 活動

三重県全域

主な活動

①探鳥会を中心とした野鳥観察の普及活動

探鳥会というと堅いイメージですが、わかりやすく言えば野鳥観察の会です。探鳥会は地区ごとに運営され、合計で年間50回ほど行われています。初心者の方にはベテラン会員が、鳥の名前、特徴、双眼鏡の操作のしかたなどを説明するようにしています。なお、探鳥会は基本的に会員外の方でも無料で参加していただけます。

野鳥を探す様子

②会報「しろちどり」の発行

年に4回程度発行しています。以前は白黒印刷だったのですが、最近カラー印刷に変更しました。会報では探鳥会の報告、めずらしい野鳥の記録、野鳥生息環境保護に関する情報などが掲載されます。会員の皆さんからの投稿も受け付けています。

しろちどり見てね！

★バックナンバー閲覧できます★

右のQRコードを読み込んでいただくと野鳥の会三重のホームページが開きます。

ボランティア活動を支えるえるいろいろな仕事

主な活動

③野鳥の調査、研究活動探

県下の野鳥生息環境の保全活動にも力をいれています。三重県の県鳥でもあるシロチドリの繁殖保護、三重県からの委託によるガンカモ類の生息数調査、カワウコロニー調査、環境省が主催し、バードリサーチが取りまとめているシギ・チドリ調査への参加、その他、ミヤコドリカウント、猛禽調査など当会独自の調査・研究を研究部で行っています。

2021年１月のガン・カモ調査の様子（海蔵川河口）

調査結果を資料にまとめる作業の例

最近被害が拡大しているカワウ

④会の運営

当会の毎年度の活動方針は、規則に基づき毎年春に行われる総会で承認されています。その内容は、年に数回行われる理事会で協議され決定されます。また、活動の具体的運営については支部長や事務局との連携のもとに、保護部、研究部、編集部、企画部の各部が担当しています。

ホームページを使った情報発信なども重要な仕事です。右の写真は、野鳥の会三重のホームページです。

代表者からのメッセージ

野外で鳥を見る。あっ、なんの鳥だろう。何をしているのだろう。でも、すぐに飛んでいってしまう。鳥を見て、興味を持つ人は多いはず。その興味が、理科の、科学の始まりです。さっそく、調べてみましょう。図鑑があれば、最高。でももっとよく鳥を見ないと。双眼鏡というものがあります。始めは身近な鳥、スズメ、ヒヨドリから。

でも、鳥の名前を覚えるだけではだめ、何をしているのか？どこにいるのか？いついるのか？どんなところでヒナをそだてるのか？　実はひとりで調べるのも結構むずかしい。学校では先生がいるが、野外では先生がいない。野鳥の会は先生がわりになることもあります。でも、実は先生に頼ってばかりではおもしろくない。やはり自分で調べてみましょう。それが理科、科学の基本です。

野鳥の会三重は年間50回くらい探鳥会を開いています。ぜひご参加下さい。会員になれば、鳥についてのいろんな知識を得ることができます。

スズメ

ヒヨドリ

団体からのお知らせ

・四季折々の自然、生きものウオッチングなど、それぞれのリーダーの独自性にあふれた自然観察が楽しめます。まず探鳥会にご参加いただいて、楽しいと感じたら、ぜひ当会にご入会ください。

information

活動は、SNSで情報発信中
ホームページ見てね！

7 持続可能な公共交通を目指して！協働のバス事業

環境のボランティア　団体名：NPO生活バス四日市

四日市市は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています

環境の仕事

住民が自らの地域の公共交通のあり方を考えて、バス路線を運用している。
地元企業や行政を巻き込み、協働で運営している。

■ 活動の紹介

地域住民主体で有料路線バスを走らせる全国で初めてのNPO法人「生活バス四日市」は「買い物と通院」という利用目的を重視しています。運行コースは、近鉄霞ケ浦駅から郊外にある「スーパーサンシ大矢知店」まで直線距離で約4kmのところを、これまでバスが走らなかった住宅地域を走り、生活に密着した商店、病院、銀行、郵便局、介護施設、市民センターなどを経由約11.5kmの区間に35か所のバス停留所があります。39人乗りバスで、4.0往復しています。

■主な活動場所等

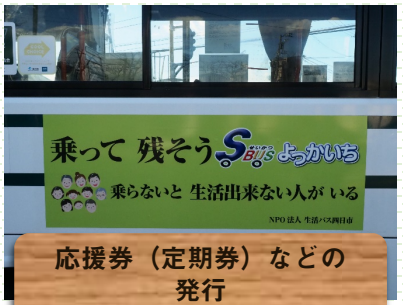
バス便数と時刻表が令和3年４月１日より変更します。ご確認下さい。

活動場所　四日市市内(羽津、大矢知、垂坂、大谷台地区)
活動日、活動頻度等　月～金曜日の5日間

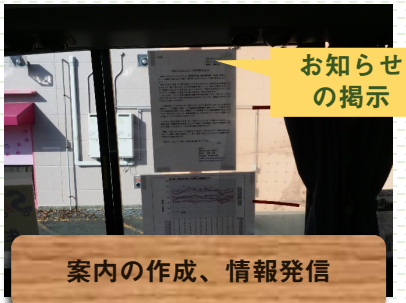
主な活動

バスの運転
※三重交通へ業務委託

停留所の管理



応援券（定期券）などの発行


お知らせの掲示
案内の作成、情報発信

動画みてね！

★NPO法人 生活バス四日市★

活動の様子をまとめた動画があります。右のQRコードを読み込んでいただくとYouTubeのリンクが開きます。

みんなで乗ろう生活バス　バスの運行を支える企業、利用者

時刻表はこちらへ

地域を支えるバス

生活バスは、羽津地区のスーパーや病院、駅を結んでいます。車を利用できない方にとっては欠かすことができない存在です。また、運転免許を返納した人や習い事に通う子どもなど地域の中を移動する足としても活用されています。

★利用者の方の話★

ちょっとした買い物や用事で、毎回子どもや孫に運転を頼むのは、気を使います。バスがあると自分の都合で動けるので気が楽です。

バスの運営費は、バスの運賃と沿線の病院、企業の協賛金でまかなわれています。協賛している団体は、毎月数十万円を負担しています。

代表者からのメッセージ

生活バス四日市は住民主体のNPO法人であり、携わる住民のボランティア精神による活動・沿線事業者さんの地域貢献としての協賛金・運行事業者さんの低コストでの協力・行政からの補助金・運賃収入など、役割分担(コラボレーション)によって、支えられています。地域住民が主体となり、生活バスを運営し、高齢者や車を運転できない人の移動手段を確保する(公共交通との融和)ことによって、地域の新たな公共交通ニーズを開拓し、バスを活用した地域活性化(地域づくり)と福祉の増進を図ることができます。結果として、介護予防、人権保護、地球温暖化対策に寄与できると思っています。

特定非営利活動法人
生活バス四日市
代表 西脇 良孝さん

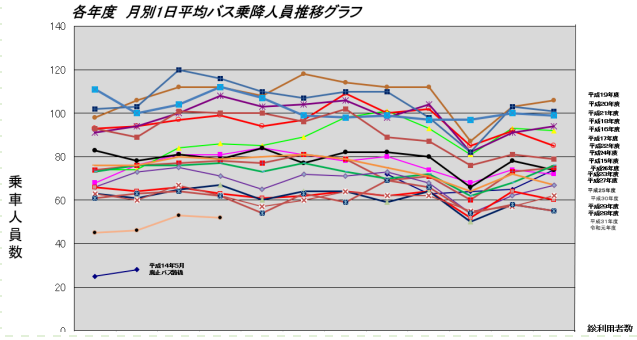
生活バスを支える企業、団体

協賛企業は現在、５事業者です。

- スーパーサンシ大矢知店
- 四日市羽津医療センター
- 守屋レディースクリニック
- いとう整形外科クリニック
- 介護福祉施設ヴィラ四日市

バス路線沿線の企業に支えられています。

生活バスに乗って支えよう！



バスの利用者は、横ばいの状態が続いています。また、新型コロナウィルスなどの影響で、公共交通全体の利用者が落ち込んでいます。厳しい状況ですがまずは、乗って生活バスの存続を応援しましょう。

団体からのお知らせ

・バスに是非乗って下さい！利用料は、100円です。乗って残す。これが大切です。ご協力よろしくお願いします。

information

ホームページ更新しています。一度ご覧ください！
https://www.rosenzu.com/sbus/

北勢地域における「持続可能な成長」教育・地域活性化・福祉活動から

四日市市は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています

研究会は、持続可能な環境・社会づくり（ローカルSDGｓ地域循環共生圏）をあらゆる地域の課題解決に寄与することを目的として社会貢献しています。

団体名：一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会

■ 活動の紹介

・学校・社会教育は、人格や社会に応じた資質形成の基盤は教育にある。ESD教育を実践し常にプログラム開発を行い、ESD教育・SDGｓの人材育成に努める。

・地域循環型社会づくりで持続可能な地域（ローカルSDGｓ）など、講演者や実践者などその時流の話題を中心に参加者との交流を目的としてシンポジウムを開催する。

・八郷地区全体をモデル地区として自治会を中心に荒廃竹林の里山保全を企画し、未来像・新たな価値を生み出す里山づくりの「協議会」の場を確立する。自治会・住民・行政・企業・地域団体などの協働で、未来への地域計画として具現化する。

・農福連携事業で、生活支援者に農業体験や工作を通してノーマライゼーションの精神で体験を通して生きる喜びを与える。

■活動場所

・活動日　毎月火曜日・木曜日 ９：00～１６：00
・四日市市・いなべ市東員町・愛知県弥冨市・（他：都県にて）

研究会の紹介

平成14年～6年間、資源エネルギー庁のエネルギー教育で全国の大学から、四日市大学も選定された。エネルギー教育の開発やシンポジウムの開催、本の発行、全国の風力発電調査など多くの事業を行って来た。その後も引き続き社会貢献を行った。平成24年に一般社団法人　四日市大学エネルギー環境教育研究会を発足。

当会のメンバーは、教員や社会教育の経験者が在席し、20年度環境大臣賞・省エネ普及指導員・環境カウンセラー・自然観察指導員などの資格を有し、また、大学の研究者や学生らとの連携もできる強みがあり、年に数回は、東京・静岡などの協議会や委員などにも参加し、メンバーは真摯に各活動を行っている。

研究会の様子

セミナーで講師をする様子

★活動紹介★

「伊勢竹鶏物語～3Rプロジェクト～Part２」の報告と、今回出版した『北勢地域における「持続可能な成長」とは？』の出版記念を兼ねて、未来へつなぐシンポジウムを開催しました。

伊勢竹鶏物語とは

未来へつなぐシンポジウム映像

【研究会事業：令和2年実績より】

◎学校・社会教育

大気汚染の授業です。空気の汚れを実際に実感するため、ハイブリット車、ガソリン車、教室の空気や校外の空気をビニール袋に取り、ザルツマン試薬で色や数値で実感した。空気を汚さないためにはと皆で考え発表しました。その他、多くのプログラムを用意しています。

◎未来へつなぐ「シンポジウム」の開催

未来へつなぐ活動をテーマに年に一回実施し、対象を市内外の方々に向け、時流の課題を共有し考える機会を創ります。令和2年は、コロナ禍で四日市市文化会館を会場に、60名の制限と、ZOOMでの参加やYouTubeでも発信しました

◎荒廃する里山の竹林活用

荒廃竹林を資源にしたく、研究の継続で圃場に竹粉をいれて実験しています。活動には大学生も参加しています。また、竹を有用性なものとして、企業連携も視野に製品化に繋げて持続的な社会および活動を試み、里山保全の啓発をして参ります。

◎農福連携事業の開催

生活支援者施設「風の家」の対象者は、日頃は机上での仕事を主に頑張っています。当会とは3年前から4月には、タケノコ堀をします。5月～毎月、種や苗植えや収穫まで体験します。その他にも2回ほど工作にも楽しく意欲的に挑戦していただいています。

代表者からのメッセージ

街の発展や生活の便利さだけではなく、人の心の豊かさに繋がるのが自然環境だと考えます。四日市市の里山の問題も放置すれば、将来の四日市の経済や社会に影響を与えます。荒廃した竹林という負の財産を資源として活用する道を作り、地域の竹林を整備することで自然豊かな里山を取り戻し、便利さと自然環境が調和した街、そしてこれまでの文化も大切に守る街を造り上げることで、地域を愛し、誇りに思い、この地に住みたいという人たちを増やすのではないでしょうか。行政、企業、市民、大学などが連携して、知恵を出し合い、様々な困難を乗り超えながら、共通の未来像に向かって具体的な行動の実行です。

令和生まれの世代、そして未来社会の子どもたちに教育を通して、人間形成・自然・環境を守り、持続可能な循環型社会と皆が誇りを感じる地域を目指していきたいと考えています。

四日市大学エネルギー
環境教育研究会
会長　新田 義孝さん
四日市大学名誉教授

副会長兼事務局長
矢口芳枝さん

【連絡者】
戸田和男（080―5155-1097）

団体からのお知らせ

- 小、中、高、大からの講師依頼
- 社会教育を、公的機関、事業所、企業からの環境教育の依頼
- ローカルSDGｓ（地域循環共生圏）の貢献のためにご一緒に活動できる個人、団体、事業所、企業などの参加をお待ちしています。

information

活動は、ホームページをご覧ください
https://www.yokkaichi-ene.com/

9 専門家じゃなくてもできる市民活動 ～鈴鹿川流域の取り組み～

環境ボランティア　団体名：魚と子どものネットワーク

四日市市は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています

環境ボランティアホむ！

水辺の保全活動を行うだけではなく、次世代の育成や人と人をつなぐコーディネート活動にも力を入れて取り組んでいます。鈴鹿川流域の取り組みでは、世代を超えた連携を評価され、「亀山の自然環境を愛する会」、「水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座」とともに、「日本自然保護大賞2019 教育普及部門」の大賞を受賞しました。

動 画
上流と下流の様子

■ 活動の紹介

当会が主に活動する鈴鹿川は、源を三重県亀山市と滋賀県甲賀市の県境に位置する高畑山に持ち、鈴鹿市、四日市市を経て最終的には伊勢湾に流れ込みます。鈴鹿川水系の上流域には国指定の天然記念物であるネコギギが生息する他、周辺の水路やため池ではヤリタナゴやカワバタモロコなどの希少種が確認されています。一部には豊かな自然が残っていますが、開発による生息環境の変化や外来種の侵入などの影響を受けた結果、生息地点や個体数は年々減少傾向にあります。

このような課題を解決し保全していくため、行政と共同で実施した鈴鹿川流域の調査や子どもたちと一緒に企画した「鈴鹿川探検隊」、企業と連携したため池での希少種の保全など、多様な主体の連携のもと様々な取り組みを行っています。

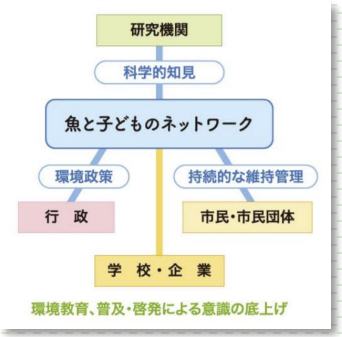
■ 活動場所

活動場所 鈴鹿川流域（亀山市、鈴鹿市、四日市市）

地域における市民団体の役割

当会は魚を中心に水辺の生きものの観察と記録を行っています。継続して観察を行うことは、川の状態はもちろん環境の変化なども感じとることができるため、とても大切なことだと思います。調べたことは行政や研究機関とも情報共有され、環境保全の取り組みを始めるきっかけづくりとして活用されています。

また、観察や記録などのひとつひとつが環境学習の素材として活かされています。これらの積み重ねにより、調査結果が地域の様々な場面で活かされていきます。地域における私たちの役割は、下記の図のようなものだと考えています。



動画みてね！

★鈴鹿川探検隊★

活動の様子をまとめた動画があります。右のQRコードを読み込んでいただくとYouTubeのリンクが開きます。

鈴鹿川探検隊 魚つかみ

鈴鹿川の清掃活動

魚と子どもKidsクラブ

環境ボランティアと仕事の両立

活動支えるメンバーたち　マイペースに参加OK

当会では、メンバーそれぞれが普段は仕事や学業を行いながら、得意分野を生かして活動をしています。副代表の石川友裕さんは、普段は四日市市内の弁護士事務所で弁護士として勤務していますが、休日に当団体の活動に参加し、魚類調査や法令調査を担当しています。監事の西部隆哉さんは、画家として三重県美術展、四日市美術展覧会等での受賞経験を生かし、環境イベントの展示などに協力しています。メンバーの林啓二さんは、当会の事務局がある亀山から四日市への引越しを機に、NPO法人四日市ウミガメ保存会にも加入し、鈴鹿川の上流と下流をつなぐ活動を行っています。四日市大学在学時から活動に関わっている平野智也さんは、池干しや清掃活動に積極的に参加してきました。卒業後はさらに活動の幅を広げ、学生と市民団体等のつなぎ役を担っています。

その他にも、淡水魚の研究者をめざし大学院に進学する学生メンバー、市役所での勤務を生かし行政と当会のつなぎ役を担っているメンバー、子育てをしながらホームページやチラシの作成などの後方支援を行うメンバーなど、様々なメンバーの協力のもとで当会は運営されています。ここでは紙面の関係で紹介しきれませんが、他にも多様なメンバーが所属し、マイペースに活動しています。

石川 友裕さん

平野 智也さん

西部 隆哉さん

林 啓二さん

活動報告ブログみてね！

魚と子どものネットワーク
活動報告ブログ

ほぼ毎週更新しています。
活動の様子やメンバーの想いなどお伝えします。

代表者からのメッセージ

あなたの得意分野や好きなことを生かして、ぜひ活動をしてみて下さい。市民活動は初めてで、これから新しくやってみたいという方も大歓迎です。新しいメンバーや親子クラブの「魚と子どもKidsクラブ」も含め、和気あいあいと活動しています。ひとりひとりがもう一歩ふみ出して、地域の水辺を一緒に保全しましょう！

「魚と子どものネットワーク」
環境省登録環境カウンセラー
（市民部門）

新玉 拓也さん
一般の企業に勤務しながら、休日等を利用して活動を続けています。

魚と子どものネットワーク
創立：2008年
会員数：35名
代表：新玉 拓也　副代表：峯和也、石川友裕
連絡先：〒519-0111 三重県亀山市栄町１４３９－２
TEL：090-1478-4756　Mail：maeterlinck_fantasy@hotmail.co.jp

information

活動は、SNSで情報発信中
魚と子どものネットワークで検索してね！

10 四日市あすなろう鉄道沿線の環境保全活動

環境ボランティア　団体名：大瀬古町の子供と地域の輪を育む会

四日市市は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています

本団体の活動は2021年3月をもって終了します

行政や企業、地域住民を巻き込んだ活動を通して、環境保全や地域活性化、まちづくり活動に取り組んでいる。環境という分野にとらわれず、他分野との協働・連携を行うなど新しい市民活動のモデルとなっている！

■ 活動の紹介

・吉崎海岸の早朝清掃をきっかけに子ども達と街のゴミ拾いへ展開し、子ども達と資源分別の体験会などを行い大瀬古町自治会とも協力して資源回収を毎月実施する事で資源を資金に替え、子ども会の加入率100%を達成させた。

・様々な団体と協働しながら地球温暖化対策も視野にいれた環境にやさしい鉄道の利用促進として、四日市あすなろう鉄道の駅や沿線の美化活動を子どもから地域の方達と共に取り組み、体験を通じた コミュニティづくりと次世代のリーダー育成を目的に活動している。具体的には、沿線の花いっぱい運動でひまわりを沿線各所に植えている。

・子ども達が内部・八王子線に乗る理由をつくり遊びを通じて体験する事で鉄道に親しんでもらい、 利用促進を行っている。結果、環境にやさしい鉄道利用を増やし地球温暖化防止活動を推進する。

■ 活動場所

日永地区及び四日市あすなろ鉄道沿線

四日市あすなろう鉄道沿線
ゴミ拾い活動など実施（不定期）

ネイチャーカレッジ
鉄道乗り方教室、自然体験デイキャンプ

これまでの活動実績のまとめ

四日市あすなろう鉄道
バレンタイン列車（協働：四郷高校）

環境にやさしい鉄道利用の促進
地球温暖化防止活動

代表者からのメッセージ

四日市市では、過去に大気汚染、水質汚濁、悪臭など公害の町となり、その四日市公害を克服した環境保全が進んだ町であるが、まだまだ公害のイメージは払拭されていません。吉崎海岸のゴミ拾いをきっかけに様々な環境活動を知り、私は、山、川、里、海の繋がりを広めて地球環境にやさしい住みやすいまちづくりをしていきたいと考えています。現在は、東海三県一市のネットワークによる伊勢湾を豊かにする為の「奈佐の浜プロジェクト」にも参画するほか、四日市市では地球温暖化防止推進活動として四日市あすなろう鉄道の利用促進を行いたいと考えています。

大世古町の子どもと
地域の輪を育む会

井上 誠二さん

団体からのお知らせ

2012年から大瀬古町(日永1丁目)で子供と地域との交流を環境保全を考えて活動する為に会名に込めました。沢山の方のご支援に感謝をしております。2021年3月で本会の活動は一つの節目として卒業致します。

活動は様々な団体へ継承され今後も四日市市の子供の健全育成や環境保全など行政、企業、市民が参画して持続可能な社会づくりを継続して頂く事を願っています。

information

活動は、SNSで情報発信中
代表者の井上さんのfacebookを見てね！